

2025 年度 高崎高等学校アメリカ研修報告書（9 日目）

2025 年 7 月 21 日

9 日目スケジュール

06:00-07:50 朝食
08:00 出発
08:45 メリット島生物自然保護区 訪問
11:30 Space View Park 散策
12:00 エアボート体験、昼食
13:30 America Space Museum 訪問
18:30 イタリアンレストランにて夕食
20:15 ホテル帰着



有人宇宙飛行マーキュリー計画 記念碑にて

本日から研修後半、フロリダ州オーランドでの活動が始まりました。本日は気温 34 度を超える真夏日で、朝から容赦ない日差しが照りつける中、生徒たちは体調に気を配りながらも、自然と宇宙の両面にわたる充実したプログラムを元気にこなしました。

各自ブッフエスタイルの朝食を済ませ、8 時にホテルを出発。今日一日案内してくれたのは、きめ細やかな説明とユーモアで常に生徒たちを引き込んでくれるガイドのジェイさん。彼の案内のもと、午前中はメリット島生物自然保護区を訪問しました。

ここでは、パークレンジャーのキム氏が登場。フロリダ地域の成り立ちや、湿地・海辺に広がる独自の生態系について、わかりやすく説明してくださいました。観察ポイントでは、望遠鏡を使ってペリカンの巣やフラミンゴの群れを間近に観察することができ、生徒たちは静かに息をのんでその姿に見入っていました。

また、絶滅危惧種であるマナティ（海牛）の観察ポイントでは、タイミングよく 7～8 頭ものマナティが水面に浮かび、ゆったりとした動きを見せてくれました。生徒たちは「こんなに間近に見られるなんて信じられない」と大喜びで、カメラを手にその姿を収めていました。

自然保護区を後にしてからは、ケネディ宇宙センター構内のロケット発射施設を車窓から眺めながら移動。途中、ケープ・カナベラルの海岸に立ち寄って潮風を浴び、昨日がちょうどアメリカの月面着陸記念日（7 月 20 日）であったことから、有人宇宙飛行計画「マーキュリー計画」の記念碑の前で集合写真を撮影しました。

昼食後は、多くの生徒が楽しみにしていたエアボート体験へ。セントジョーンズ川の湿原を風のように疾走するボートに乗り込み、生徒たちは歓声を上げながらアドベンチャーを満喫しました。途中、複数のアリゲーターにも遭遇し、さらに陸に戻ってからは、小型のアリゲーターとの触れ合いも体験できました。

午後は、**American Space Museum** に移動し、元宇宙飛行士のウィンストン氏による講演を受講。彼はスペースシャトルに 2 回搭乗、さらに国際宇宙ステーション（ISS）に約 1 か月滞在した経験を持ち、日本の土井隆雄宇宙飛行士と共に船外活動を行ったことでも知ら

れています。

講演では、宇宙での生活や任務についてのリアルな体験談を交え、「挑戦し続けることの大切さ」について語っていただきました。質疑応答の時間には 10 人以上の生徒たちから積極的に質問が寄せられ、英語による対話形式の充実したセッションとなりました。

その後、生徒たちはグループごとに分かれてミュージアムスタッフから NASA 関連の展示物について詳しい解説を受け、実際の装備や模型に触れながら宇宙開発の歩みや現在の技術について理解を深める時間となりました。

さらに夕方からは、現役の NASA 職員でアルテミス計画に関わるマット氏によるプレゼンテーションが行われ、現在進行中の月探査計画に関する最新情報をわかりやすく共有していただきました。ここでも生徒たちから多くの質問が飛び交い、将来の宇宙開発に対する関心がさらに高まるひとときとなりました。

本日夕方には、スペース X 社のファルコン 9 の打ち上げが予定されていたため、再び **Space View Park** へ戻って打ち上げの瞬間を待ちました。しかしながら、天候や技術的な理由により、打ち上げは直前で延期に。それでも生徒たちは「本物のロケットが打ち上がる場所に立っていた」という高揚感を胸に、次のチャンスに期待を寄せていました。

本日の締めくくりは、地元のイタリアンレストランでの夕食です。ここには UCF（セントラル・フロリダ大学）の学生 5 名も合流し、年代の近い仲間同士すぐに打ち解け、にぎやかで国際色豊かな食事の時間となりました。英語での会話にも積極的にチャレンジする姿が多く見られ、最後まで活気ある 1 日となりました。

20 時過ぎにホテルへ帰着。炎天下の中、自然の雄大さと宇宙の奥深さに触れた研修 9 日目は、忘れられない経験と出会いに満ちた、濃密な一日となりました。



保護地区の貴重な生態系の観測



ウミガメの巣についての説明



湿原を疾走するエアボートに乗り、多くのアリゲーターや動物と遭遇



小型のアリゲーターとのふれあい



7～8 頭ものマナティと遭遇できるのは珍しい



元宇宙飛行士ウィンストン氏による講演



スペースシャトル計画で使用されていた機材



NASA アルテミス計画担当マット氏による講演



スペース X ファルコン 9 の打ち上げ待機中



地元 UCF (セントラルフロリダ大学) の学生との夕食会